

さくら苑の縁

2023 Vol.39
秋号

発行 / 社会福祉法人 神戸中央福祉会 山手さくら苑
令和5年10月13日発行 第39号

発行責任者 施設長 / 野尻 信一郎

職員紹介リレー

事務課 事務員 川口 恵子 (かわぐち けいこ)

山手さくら苑の事務課で事務員をしております、川口恵子と申します。普段は山手さくら苑の1F事務所で業務しております。

私は神戸市垂水区にいます、当法人の別事業所である塩屋さくら苑が開設した2007年に事務員のオープニングスタッフとして入職し、その後山手さくら苑に異動となり、入職してから早16年が経ちました。入職してから結婚し、子供を3人授かり、産休と育休を3



度繰り返し、一緒に働いている皆さんにご迷惑をかけながら、支えていただきながら今日も元気に働いております。

塩屋さくら苑に入職する前も同じく事務の仕事をしており、電話の応対や届いた書類の処理を行っていました。特養の事務員とはどんなことをするのか、ぼんやりとしたイメージのまま入職し、まずたくさんの方々と関わるお仕事だということに驚き、新鮮に感じた記憶があります。事務員ということで、直接皆様と接する機会が多い訳ではないですが、施設の中で働く職員が100名近くおり、特養・ショートステイ・デイサービスのご利用者、ご家族、取引先と、多くの方と関わらせていただきました。仕事内容については、給与・会計・営繕関係、ご利用者の見守りや送迎、敷地内に植えたばかりの桜並木への水やり、またオープニングということで決まっていなかったことも多く、正に「なんでも屋」で、とにかく走り回ってあっと

いう間に1日が終わり、数年が経ち、遅くまで残業することも多くありました。

長男が生まれて育休が明ける時に、山手さくら苑への異動を提案されこちらで働くことになりましたが、同じ業務内容でも場所が変われば勝手が違い、残業したくてもできず、子どもが体調不良となれば早退・お休みとたくさんご迷惑をおかけし、これまたあっという間に年数が経って現在へと至っ

ています。

普段の私はまだまだ子育て真っ最中で、数少ない趣味は家族旅行と、仕事づくしだった毎日から、子供づくしに変更された毎日を過ごしております。振り返れば、周囲の方に本当に恵まれてきた16年だったと、しみじみと感じます。

コロナ禍直前に産まれた末っ子が4歳になるようとしています。地域のお祭りも再開してきて、今年の夏に生まれて初めて打ち上げ花火を見ることができ、すごいしゃぎようでした。残念ながら、5類移行後も完全にコロナ終息とは言えない状況ですが、フロアでの家族面会再開や外出行事などで、徐々に自由が返ってきているのを実感しております。

今後も山手さくら苑に関わる皆様にとって、少しでもお力になれるよう頑張ってお参りますので、よろしくお願いいたします。



冬に向かう季節の移ろいを感じる今日この頃、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は山手さくら苑の運営にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。

先日、日本のエーザイとアメリカのバイオジェンが共同開発したアルツハイマーの新薬「レカネマブ」が日本でも承認されました。この薬はアルツハイマーの原因物質とされるアミロイドベーターに働きかける世界初の薬であり、その意味においてはとても画期的な薬といえます。しかし、この「レカネマブ」は、本当の初期かまだ症状が出る前の人を対象にした“進行や発症を遅らせる薬”で、私たちが待ち望む“認知症状を止めたり改善したりする薬”ではないのです。そして、今のところ、このような認知症を治す特效薬の開発は不可能というのが、世界の共通認識となっています。

このような背景から、日本政府が今取り組む認知症施策推進大綱では、“予防”と“共生”が2つの大きなキーワードとなっています。予防に関しては、認知症にならないように予防することに加え、認知症になったとしても進行しないように予防することが大切です。食事・睡眠・運動といった生活習慣病の予防はもちろんのこと、頭を使いながら同時に体を動かす“デュアルタスク運動”の効能に注目が集まっています。例えば、「後出し負けじゃんけん」や「台の昇降を行いながらしりとりをする」など、特に初めて行うような慣れないデュアルタスク運動が脳細胞をより活性化させます。また、共生においてはより多くの方が認知症のことを理解し、たとえ認知症になったとしても住みやすい社会にしていけることが必要です。

いずれにしても、認知症の人が700万人を超えると言われる2025年を前に、私たち1人ひとりが自分事として認知症を捉え、“予防”と“共生”に取り組むことが求められています。 施設長 野尻 信一郎

編集委員

施設課長	新谷和之
介護副主任	村上宣雄
ショートステイ生活相談員	井上和恵
デイサービス生活相談員	藤森大輔
施設課管理栄養士	三好絢子
あんしんすこやかセンター社会福祉士	田村優佳
事務職員	土橋志保

編集後記

8月に施設ホームページをリニューアルいたしました。法人としての取り組み「健康経営の取り組み」「セーフティケア」「不妊治療の取り組み」「職員採用」について詳細を掲載しておりますので是非ご覧ください。

セーフティケアについては株式会社ウェル・ネット研究所のサービス「M.I.S(マルポスメジャー・インスペクション・サービス)」の活用や「ひょうごノーリフティングケアモデル施設」認定に向けて研修に参加しております。セーフティケアの活動内容については次回広報誌にてお知らせいたします。

ご案内

HP <https://kobechuofukusikai.net/yamatesakuraen/>
FB <https://www.facebook.com/yamatesakuraen>

施設課 特別養護老人ホーム・ショートステイ

カメラ 創立記念

はばタンとかもめんがお祝いに駆けつけてくれました。



メリケンパークへ行きました。シャボン玉をしたり、ジュースを飲んだり懐かしい景色を眺めながら楽しいひと時を過ごしました。

神戸港ドライブ



新人職員紹介

今年度は8名の職員が入職しました。



ハリエット介護士



ロレーナ介護士



カク介護士



森内介護士



小谷介護士



長谷介護職員



奥田介護職員



金光谷送迎・営繕担当



つつじ散策

湊川神社から文化ホール周辺を散策しました。満開のつつじに笑顔が溢れていました。



おやつ作り・実演調理



目の前で料理を振舞ってもらったり利用者様とおやつを作りました。



お誕生日会

誕生日当日はケーキをお出しし、担当職員が選んだプレゼントを贈りお祝いをしました。



Instagramのご案内

利用者様の苑での日常や行事、施設の取り組み、職員の生き生きと働く様子を発信しています。是非ご覧下さい。

検索ID▶▶▶YAMATESAKURAEN3



携帯でQRコードを読み込んでね!

山手さくら苑デイサービスセンター



デイサービスの日常風景



中庭の桜がきれいに咲き、デイサービスも久しぶりに近くの宇治川へ桜の花見に行くことができました。



さくら苑の庭には梅の木があり、今年は花びらが満開でした。梅の実も多く枝につき、収穫して利用者様に蒂取りをしていただきました。

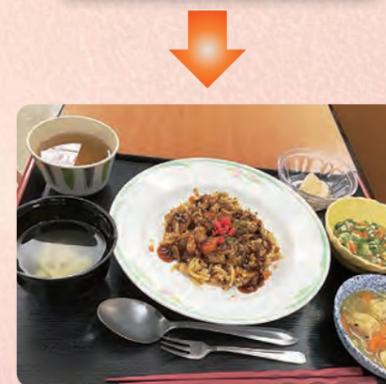


さくら苑の中庭に、今年も色々な植物を植えて育てました。利用者様にも種まきを手伝って頂きました。



実演調理

コロナ禍で出来ていなかった、料理長と栄養士による実演調理を久しぶりに実施することができました。利用者様の目の前で焼き飯や焼きそばを調理され、ソースの匂いがとても食をそそりました。



新入職員紹介

さくら苑は4月で21年を迎えました。デイサービスでも4月から新しい職員が5名入職しました。皆様よろしくお願いします。



居宅介護支援事業所



【アンケートへのご協力をお願い】

新型コロナウイルスが5群扱いとなり、皆様もマスクをするしない等悩ましい夏となりました。日本とは思えない様な長い猛暑にも辟易とされたのではないのでしょうか。

山手さくら苑居宅介護支援事業所では毎年、担当ケアマネジャーからアンケートをお願いさせて頂いています。今年もお忙しい中、大変申し訳ありませんが11月にはアンケートのご協力も併せ訪問させて頂きたいと思っております。ご意見ご要望等ございましたら是非、ご記入頂きますようお願い致します。 宜しくお願い申し上げます。



元町山手あんしんすこやかセンター

地域の夏祭りに参加してきました!!



元町山手あんしんすこやかセンターは地域への広報活動に力をいれています。

今年は高齢者と防災を絡めた子供向けクイズの配布を行い、あんしんすこやかセンターについて周知し、夏祭りを通じて幅広い世代に高齢者の総合相談窓口として知っていただく機会となりました。



あんしんすこやかセンターでは、地域の方々へ認知症の理解と見守りの重要性の啓発に力をいれています。高齢になっても住み慣れた地域で、安心して生活を続けていただけるように日々取り組んでいます。

事務所



「子ども食堂さくらcafé」を開催しています!



こども食堂さくらcaféですが、7月より山手さくら苑にて開催しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、それまでは生田文化会館で開催したり、デリバリー形式でお弁当をご自宅にお届けしたりしていましたが、この度さくら苑内で開催することができるようになりました。

地域ボランティアの方々に加え、神戸親和大学の学生の方々も参加してくださっています。

学習支援やレクリエーション、みんなそろっての食事など、子どもたちの元気な笑顔があふれていました。



食事は子ども達が自分で並べています!



さくら苑の1階ロビーのカウンターに、子ども食堂あての募金箱を設置しております。ありがたいことに、たくさんの方々からあたたかいお気持ちを頂いております。

半年ごとに、いただいた募金についてご報告をさせていただいておりますので、ぜひご確認いただければと思います。

今後も集まった募金について、またご報告させていただきます。

